

男が働かない、 いいじゃないか!

～これからの「当たり前」を考える～

ジェンダー平等や男女共同参画について、男性が当事者として考えていくことは大切なことです。男性が学校を卒業してから定年退職するまで働くということが当たり前とされている点を、一度立ち止まって考えてみてもよいのではないのでしょうか――



1975年、東京都生まれ。博士(社会学)。社会学・男性学・キャリア教育論を主な研究分野とする。

日本では「男」であることと「働く」ということとの結びつきがあまりにも強すぎる」と警鐘を鳴らしている男性学の第一人者。

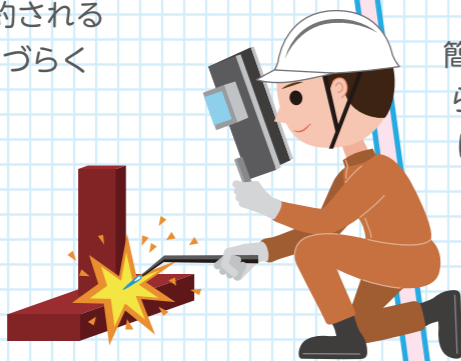
大正大学心理社会学部准教授
講師 田中 俊之 さん

「男らしさ」に隠される 生きづらさとは?

ジェンダー平等・男女共同参画について考えるとき、単身者が多くなっている今、「男も女も仕事も家庭も」という考えにすら無意識の偏見が隠れていると感じます。単身者や同性カップル、ひとり親世帯など多様性を認め、共に考えていかなければならないのではないのでしょうか。

ジェンダー平等・男女共同参画を考えるうえで、互いの性を知ることは大切なことですが、それ以上に、自分の性が自身の人格形成に与える影響をよく理解していれば、相手の困難を想像しやすくなると思います。

「男らしさ」ということばに集約されるような「刷り込み」が男性を生きづらくさせている中で、そうした「刷り込み」を排除し、広く社会全般の中で、いろいろな人たちと助け合って生きていくという意識が大切だと考えます。



「関心がないこと」が 「寛容」?

日本においても、多様性を認める社会になってきているといわれますが、積極的寛容についてはどうでしょうか。「関心がないから寛容」というだけでは多様性を認めることにはならないと考えます。互いに敬意を持ち、共に変わろうとする姿勢が、いろいろな人が一緒に生きていくことに繋がっていくのだと思います。

問題を痛烈に意識しさえすれば人は簡単に行動変容できるとコロナ禍が明らかにしました。今、私たちは強制的に立ち止まらされたということをポジティブに受けとめて、これからのジェンダー平等・男女共同参画のあり方を考えてはどうでしょう。

(鈴木 記)

2021年12月14日から12月21日まで「共に生きるフォーラムふじさわ2021」がインターネットで動画配信されました。

育児をする男性はマイノリティ?

今から11年前、当時0歳だった長女を真新しい抱っこ紐に入れ、買い物していた時、その姿が目立ったのか、通り過ぎる人々からじろじろと見られたことがあります。“イクメン”ということばが登場した年で、育児する男性がまだまだマイノリティであった時代、父親として、子育ての場面で居づらさを感じるとともに、固定的な性別役割分業の意識がいたるところにあったと思います。

そうした状況もこの10年で大きく変化し、今では小児科や子どもの健診など多くの場面で、父子の姿を見ると、社会は動いているのだという実感があります。男女分け隔てなく、子育ても仕事も行い、それぞれが互いを尊重し、社会的に責任を分かち合う姿をみることができるようになったといえるのではないかと思います。



いろいろな関係性を 認め合える社会へ

田中先生のお話を通じ、いくつかの点について改めて考えるよい機会となりました。

一つは、「今の社会は、結婚と子どもが前提になっている」との議論を踏まえつつ、単身者という視点、ひとり親という視点、性自認・性的指向の視点など、真にジェンダー平等を実現するには、多様性を理解し、認め合い、一人ひとりの人権を尊重することこそが大切だということです。

また、一人ひとりの意識だけでなく、社会構造上の問題に目を向けることも大切だと思います。例えば、私が父親支援の活動をする中では、「妻への子育て負担を減らしたい」という子育て中の男性の悩みをよく聞きます。しかし、父親自身が業務の効率化を図るだけでは限界があります。働き方は人それぞれですが、効率的に仕事を終わらせて、家に帰りたいと思っても、長時間労働や土日の出勤前提で業績を伸ばす社員が高く評価されるという状況では、夫婦のジェンダー平等を実現することは非常に難しいのではないかと思います。

「職場以外の地域などでの居場所づくり」「複数のポイントカードを持つ(人との関係性をその場にあった形で構築していく)」、「相手に敬意を払う」などにも、これからのジェンダー平等を実現するための多くのヒントが詰まっていると感じました。



1977年生。4児の父。第1子から第3子まで育休を取得し産後のパートナーを支えながら家事・育児にコミットする。2012年『父親育児の楽しさを広める』活動を開始。2016年に神奈川県男女共同参画審議会委員を務める。2019年パパライフサポート事業を開始し、父親の家事育児を広める活動を本格的に行うようになる。2021年ファザーリング・スクール校長に就任。同年、ふじさわジェンダー平等プラン推進協議会の委員となる。



ふじさわジェンダー平等プラン
推進協議会委員
池田 浩久 さん